

会津大学年報業績登録システム要求仕様書

1 システム概要

会津大学年報業績登録システム(以下、「本システム」と称する)は、会津大学における教員の成果を登録し、年度ごとにまとめた上で年報として出版するためのシステムである。ここでの「出版」とは、PDF形態により出力することを意味している。

教員の成果には、具体的には以下の内容が含まれる。

- 学術的な成果(論文発表、学会発表など)
- 教育に関する成果(学生指導、講義・演習担当など)
- 地域貢献に関する成果(講演や外部講義、地域教育など)
- その他、教員が本学のために貢献した内容

各成果は項目ごとに本システムに入力され、年度を区切った形で整理された上で年報として出版される。従って、本システムは、各教員の成果をまとめる成果登録・蓄積システムとしての側面と、それを出版する編集・出版システムとしての側面の両方を有するものである。

2 基本 requirements 事項

2.1 概念

1. システムを構成するハードウェア及びソフトウェアの使用許諾条件に適合していること。
2. 国内外の大学などの研究教育機関に対してソフトウェア作成業務委託の受託などの十分な受託実績を有すること。また、受託実績について明示すること。

2.2 契約形態

1. 物品の借入及び関連する導入、保守、撤去作業の全てを包含した賃借契約とする。
2. 平成28年4月1日から平成33年3月31日迄の5年間の賃貸借契約とする。

2.3 借入物品

1. システムを構成するハードウェア、ソフトウェア並びにその要素及び付加機構に関して、知的所有権を侵害していないこと。
2. ハードウェアは全て現時点で製品化されている、又は製品化が確実なものとし、賃貸借契約期間中において部品や消耗品の供給及びサポートが可能であること。
3. 通称「団体規制法」適用団体、又は同団体関係者が製造又は流通に関与している可能性のあるハードウェア、ソフトウェアは用いないこと。
4. 借入物品のバージョンアップや改良などで納入物品に変更が必要な場合、及び大学側で必要と認める変更は納入業者と大学間で協議の上、コストの増減を伴わない範囲内で変更ができること。

5. 機器を稼動させる為の付帯物（電源タップ/ケーブル、変換コネクタなど）は納入機器に含めること。
企画構成案(任意様式)に「機器毎の付帯物の明細」を明示すること。

2.4 システム導入

1. 本学と合意したシステム導入計画に沿って導入作業を行うこと。
2. システムの導入に際しては大学側の指示に従い、大学側より作業内容や作業日程の変更要請があった場合は調整を行うこと。
3. 平成28年3月1日（火）からシステムの暫定利用ができること。また、平成28年4月1日（金）からシステムの本番利用ができること。ここでの「暫定利用」とは、平成27年度の業績のデータ入力が可能となること（ただし、この時点では過去データの参照はこのシステムでは行えず、旧システムを利用することになる）で、「本番利用」とは、過去データの参照なども含め、本仕様書にて要求されているすべての機能が利用できることを意味する。

2.4.1 基盤ソフトウェア

システムの構成として、何らかの基盤となるソフトウェアを利用する場合は、以下の要件を考慮すること。

1. 実現が必要とされる業務仕様【10頁 5. 業務機能に関する要求事項】の範囲内で大学側の各業務担当と協議し「カスタマイズに関する仕様書」を作成すること。
2. 導入テストとは別にカスタマイズ機能のテスト仕様書に基づく動作テストを実施すること。
3. 導入時カスタマイズが完了後の動作検証テストの結果、業務機能に関して必要とされる機能の再調整を行うこと。

2.4.2 導入計画

事業推進のスケジュール(任意様式)に「導入計画案」を明示すること。

1. 導入計画案には最低以下の項目を明示すること。
 - 設置場所毎の導入作業計画
 - 責任者及び導入作業を行う SE/CE の人員計画
 - 設置する際に必要となる什器及び消費電力に関する資料
 - カスタマイズ作業計画(必要に応じて作成)
 - 職員向け導入教育計画
2. 導入計画案は以下に示す事項をふまえて策定すること。
 - 設置場所での作業期間は、平成27年 月 日（ ）～平成28年2月29日（月）までとする。
 - 期間内に作業のできる日は、祝祭日を除く月～金とする。この期間は、年末年始の休業日、センター試験、2次試験等もあるので、大学側と調整を行うこと。
 - 作業のできる時間は、原則 9:00～17:00 とする。

2.4.3 導入に係る養生作業

導入されるシステムに係る養生に関して、納入業者と既存システム納入業者及び大学間で協議の上、納入業者の責任で行うこと。

2.4.4 既存システムの撤去

既存システムの納入業者と大学間で協議の上、既存システム納入業者によって既存システムの撤去作業が行われるが、納入システムの導入作業と作業期間の重層が想定される為、納入業者はこの協議に必要な応じて参加し導入作業に関する調整を行うこと。

2.4.5 導入作業

1. 導入作業において AINS 及び既存システムの停止（部分停止含む）が必要な場合は、その期間を極力短くするとともに、その時期、期間については大学側と事前に協議すること。
2. 導入作業に必要となる要具（電源タップ、電源延長コードなど）を用意すること。
3. 導入される機器の設置位置調整や付随するケーブル類の長さ調整及び接続機器間のケーブル類収束など機器類周辺の環境を整備すること。
4. 納入されるシステムに附帯する以下の作業を行うこと。
見積書(任意様式)に「各作業の概算費用」を明示すること。
 - 既設システムから納入システムへのデータ移行作業
 - － 2014 年度分までのデータについて、適切なフォーマット変換を含めた移行作業
 - 導入される機器のコンピュータ環境の設定作業
 - 既設及び新規導入の他システムとの設定調整作業
 - 機器搬入前に実施できる設定作業
 - 導入される機器の設置に伴う工事作業
5. 納入システムに関する職員向けの教育を行うこと。
見積書(任意様式)に「導入教育に係る概算費用」を明示すること。

2.4.6 導入作業の検収

システム導入作業完了時に以下の資料を提出すること。

- 「カスタマイズに関する仕様書」に基づくテスト実施結果報告書
- 納入システムの稼動試験結果報告書
 - － レスポンス及びパフォーマンスに関するテストレポート
- 納入システムの構成情報（ハードコピー形式及び電子データ形式）
 - － ネットワーク構成図
 - － シリアルナンバー、IP アドレス、MAC アドレス
 - － ソフトウェアバージョン一覧

- 納入システムのマニュアル（ハードコピー形式及び電子データ形式）
 - － 教員向け利用者マニュアル（日本語版/英語版）
 - － 職員向け利用者マニュアル（日本語版）
 - － システム運用者向けマニュアル（日本語版）
 - － 各種オンラインマニュアルに関する情報

2.5 システム撤去

2.5.1 システム撤去に係る養生

賃貸借契約が終了したシステムの撤去に係る養生に関して、納入業者と次期システム納入業者及び大学間で協議の上、納入業者の責任で行うこと。

2.5.2 システム撤去作業

賃貸借契約が終了したシステムの撤去作業は納入業者及び大学間で協議を行ない、納入業者の責任で行うこと。撤去に際して、システム内のデータの完全消去を行うこと。

2.5.3 データ移行作業補助

次期システムへのデータ移行のために必要となる以下の作業を実施すること。

- 1-1. データの取り出しや項目の説明等の撤去システムの請負者による実施が必要となる作業。
- 1-2. 抽出や移行が必要となる情報に関する撤去システムの請負者に依存となる作業。
- 1-3. システム撤去時のデータ削除については、事前に大学側に電子データを引き渡すこと。

2.6 保守

2.6.1 保守体制

事業実施体制(様式第6号-1)に「保守体制案」について明示すること。

1. 保守体制案は以下に示す事項をふまえて策定すること。

(1) 障害発生及び問い合わせ時の連絡体制

(2) ソフトウェアに係る事項

- 関連ソフトウェアに関する調査体制
- 管理者、保守要員及びその体制
- システムを安定運用する上で必要とされる資格
(情報処理技術認定、メーカー技術認定など)

(3) ハードウェアに係る事項

- アベイラビリティ維持の為必要となる常備部品の明示
- 常備部品の保管場所、保管数量、保管方法
(常備部品の保管場所及び保守要員待機場所は大学外に納入者が用意すること。)
- 管理者、保守要員の待機場所及びその体制
- 定期点検などの年間の保守計画

2. サポートセンターによる問い合わせ受付が可能であること。

3. ハードウェア及びソフトウェアの保守窓口は一本化すること。

4. 遠隔操作による保守作業が可能であること。

事業実施体制(様式第6号-1)に「遠隔操作による保守作業」について具体例にて明示すること。

2.6.2 経常保守

1. システムの利用に関する問い合わせや障害発生時に以下の対応が可能であること。

なお、通常の業務時間帯は、年末年始及び祝祭日を除く月～金の 9:00～17:00 とする。

- 業務時間帯におけるサポートセンターによる問い合わせ受付及び障害発生時における原因の切り分けなどの初動対応
- 大学側からの要請による土日・祝祭日における保守作業及び待機
- 大学内での状況監視及び障害の原因追求作業の実施
- システム運用上必要となるデータ作成作業
- 障害対応などによるデータ復元作業

2. 重大インシデント(システムが提供するサービスの維持が困難な状態)の対応は、年間を通じてサービス復旧作業を3時間以内に開始し、障害の回復及びサービスの再開を障害発生を起点とする2営業日以内を目処に対応するよう保守体制を提案すること。なお、このサービス復旧作業の開始は、ネットワーク経由でも可とする。

3. 定期的にシステム稼動記録を確認し、障害などに対する予防措置を実施すること。

4. 保守作業完了の後、3営業日以内に詳細状況を記載した報告書を提出すること。

5. システムの不具合によりデータ欠損などが生じた場合、納入業者の責任においてデータの遡及や復元などの対策を行うこと。
6. 運用や環境変更等に係るドキュメント等関連資料の更新を行うこと。
7. 提供サービスを停止する必要がある障害対応や計画的な保守作業について、大学側と協議の上、メンテナンス時間として通常的时间帯の確保を優先した対応にて行うこと。
8. 年1回の定期点検として、作業内容、作業時期、作業期間を大学側と事前に協議を行った上で、実施計画案を策定し大学側に提出すると共に、その実施計画に基づき定期点検を行うこと。

2.6.3 ハードウェアの保守

1. 部品交換などの障害対応のための人員が、保守部品の手配を含め年間を通じて障害報告後、翌営業日の9:00から対応が可能なこと。
2. 賃貸借契約期間において、納入機器の設置場所移動の必要が生じた場合、大学側との協議の上、移動作業及び移動後の稼動試験を納入業者が行えること。
3. 大学側の都合による「障害発生が見込まれる定期点検」（電気設備保守による全館停電など）時に障害対応のための人員が現地で待機できること。
4. 保守方法はオンサイト保守にて、保守作業を実施すること。

2.6.4 ソフトウェアの保守

1. ソフトウェアのカスタマイズ及び保守を行う技術者は個人、アルバイト、兼業者、学生など除く専ら導入されるアプリケーション・ソフトウェアに携わる者とする。
2. 賃貸借契約期間において、納入機器で稼動するソフトウェアへのパッチ適用とパッチ適用後のアプリケーション・ソフトウェアの動作検証を納入業者の責任で行うこと。
3. 賃貸借契約期間において、アプリケーション・ソフトウェアの不具合への対処及び対策後のアプリケーション・ソフトウェアの動作検証を納入業者の責任で行うこと。
4. 賃貸借契約期間において、セキュリティ対策など運用上必要となった場合、大学側に情報を提供すると共に対応方法を提案し、大学側と協議の上、ソフトウェアのバージョンアップを実施すること。
5. 賃貸借契約期間において、サポート切れソフトウェアに対する対応を納入業者の責任で行うこと。

2.6.5 その他

1. 受託者はいかなる場合においても、本契約の履行中に知り得た業務に関する事項及びそれに付随する事項を第三者に漏らしてはならない。
2. 本契約の履行にあたり、第三者の著作権等に抵触するものについては、受託者の責任と費用をもって処理すること。

3 AINS システム調達における共通事項

3.1 サーバ

以下の AINS 環境の共通事項に注意して、本要求仕様書が要求する機器が AINS 環境で稼働するよう企画構成案 (任意様式) を作成すること。

1. 高可用性、耐障害性を持つ機器であること。但し、金融系などのミッションクリティカルシステムほどの信頼性は必要としない。
2. サーバ装置で管理しているデータは夜間自動的にバックアップが行われること。
3. サーバ装置でのデータバックアップは、業務サービスを停止しない状態で行えること。
4. サーバ装置で利用する業務用データのバックアップは、計画的に (デイリー、ウィークリー、マンスリー等) バックアップが可能であること。
5. サーバ装置の重要部品は活性保守が可能であること。
6. SMTP を用いたメール通知機能によって、ディスク障害時等に通知ができる機能を装備していること。
7. LDAP¹ 情報を使ったユーザー認証が可能であること。

4 システム全般に関する要求事項

4.1 クライアント

1. AINS 上に配置されているコンピュータを使って主に教員がサービスを利用できること。
2. 利用者は、本学の教員・管理者を合わせて 120 名おり、利用機器は以下の通りである。
 - 教員用端末 約 120 台
 - 演習室に配置されたワークステーション及び端末 (学生用端末) 約 600 台
 - 研究室に配置されたコンピュータ (Windows、Mac、Linux など) 約 1200 台
 - 事務局用ネットワークに配置された事務用コンピュータ (Windows) 約 90 台
 - 保守運用のために、学外の特定ホストから SSH によるアクセス
3. 操作は、Web ブラウザで行えること。
4. Web ブラウザが稼働する OS は、Solaris, Mac OS X, Windows とする。
5. Internet Explorer 11.0 以上、Mozilla Firefox 38.0 以上 (ESR 版を含む)、Safari 7.0 以上のいずれのブラウザでも利用できること。
6. 新しいブラウザへの移行などクライアント側の利用環境が変わった際に、システムの動作検証や対応ができること。

¹ Lightweight Directory Access Protocol

4.2 利用者

想定される大凡な利用者数を以下に示す。

種別	想定人数
教員	100名 編集者/管理者含む
職員	2名 作業支援者、管理者

4.3 システムの利用時間

1. システムは終日の利用ができること。
2. 利用者などの区分毎にシステムの利用時間帯の制御を行える機能を有すること。

4.4 セキュリティ関連

企画構成案(任意様式)に「セキュリティ対策」を明示すること。

1. 研究業績などの情報を扱う為、適切な管理と機密保護が行える機構を有すること。
2. データアクセスに関する記録が行われること。
3. システムの不正利用や不正侵入及び盗聴・改竄などに対応できる機構を有すること。
4. Web サーバなどクライアント装置に対してサービスを行うサーバでは、利用を許可する端末情報（IP アドレスなど）の管理が行えること。
5. 一定時間操作が無かった場合、自動的にログアウトされること。
6. SSL/TLS の利用、主要な一般のブラウザに予めインストールされているルート証明書で証明が可能なサーバ証明書の利用が可能であること。

4.5 システム性能

4.5.1 レスポンス及びパフォーマンス

1. 利用者のストレスを感じない範囲のシステム応答があること。
実際の運用にて問題が生ずる場合は納入業者の責任で業務に支障がない環境を実現すること。
2. 同時に「20 リクエスト」の業績申告が可能であること。

4.5.2 データ保全に関する事項

データの保全方法及びシステム障害時の対策に関する提案を行うこと。また、提案は以下の要件を満たすこと。

1. データの損傷があった場合の復旧方法が明確化されていること。
※ データ復旧作業及びデータ復旧が短時間でできるための作業手順書が用意されていること。
2. 必須項目の削除などデータに不整合を引き起こすような修正を拒否できる機構を有すること。
3. 管理者権限により利用者（教職員）の個々の環境へ移行できる機能を有すること。

4.6 その他

4.6.1 データ化

1. 運用管理者による perl などのプログラムによりデータを抽出できる環境を提供できること。
2. 基本的なデータ抽出を行う perl などのプログラムを提供できること。
3. データ化の範囲について、管理担当教員及び運用管理者がユーザーの入力データを、構造化データとして抽出できること。

5 業務機能に関する要求事項

年報業績登録システム及び年報作成で必要となる機能を以下に示す。なお、これ以外の機能であっても必要と判断される機能やシステムの構造上必要となる機能について含めた提案を行うこと。

また、提案するシステムが提示された仕様と同等の機能または業務的に同様な運用が可能な場合は、提示した要求通りの機能の実装は必要としないが、その代行及び運用方法などについて明示すること。

なお、本仕様は管理が必要となる項目やサービスを明確にするためのものであり、本仕様の要求通りの機能実装を目的とするものではない。本仕様を元を実現されるサービスを検討し、必要となる項目や機能を整理した技術提案とすること。

業 務
入力環境整備
教員業績の申告
組織業績の申告
業績の参照
運用管理
年報作成

以下に業務概要を示す。

1. 年報業績登録システム

- (1) 入力環境の整備
- (2) 教員業績の申告 各教員
- (3) 組織² 業績の申告 代表教員
- (4) 入力済みの業績データ照会 各教員
- (5) 申告状況の確認
- (6) 論文のカウント

2. 年報作成システム

- (1) 年報 \TeX 原稿 (\BIB\TeX) の集計及び作成
- (2) ドラフト原稿のレビュー

作業者の記載の無い作業は、管理担当教員及び運用管理者が行う。運用管理者とは、本学の管理者のことである。

² 講座、センター、プロジェクトなどの組織

5.1 入力環境整備

年度単位に申告が必要となる教員、組織などの情報や教員の顔写真などシステムの動作上必要となるパラメータなどの管理を行う。これらの情報は管理者によって管理される。

5.1.1 当該年度情報

1. 処理対象とする年度を管理する。

例 control_year.csv:
処理対象年
2013

5.1.2 教員情報

1. 教員のログイン名、身分を管理する。

例 2013_professor.csv:
ログイン名, 氏名-日, 氏名-英, 研究者コード, 身分-日, 身分-英, 身分コード, 組織-日, 組織-英, 組織コード
t-aizu, 会津 太郎, Tarou Aizu, 101101, 教授, professor, 31, A講座, A Laboratory, 101-001

2. LDAP 認証時には、ログイン部分で認証を行う。

5.1.3 教員の顔写真情報

1. 教員の顔写真をファイル名がログイン名として管理者が JPEG 形式で保存する。

5.1.4 講座情報

1. 講座名を管理する。

例 2013_section.csv:
コード番号, 講座-日, 講座-英
104-009, システム解析学講座, Systems Analysis Laboratory
301-015, 画像処理学講座, Image Processing Laboratory
305-013, コンピュータグラフィック学講座, Computer Graphics Laboratory
306-014, 生体情報学講座, Biomedical Information Technology Laboratory

2. LDAP 認証時には、ログイン名で認証を行う。

5.1.5 役職情報

1. 役職名を管理する。

例 2013_executive.csv:
コード番号, 役職名-日, 役職名-英
10, 学長, President
119, 長, Director
31, 教授, Professor
34, 上級准教授, Senior Associate Professor
37, 准教授, Associate Professor
41, 助教, Assistant Professor
42, 助手, Research Assistant

2. LDAP 認証時には、ログイン名で認証を行う。

5.1.6 講座の関連づけ情報

1. 各講座や所属教員数を画面上で表示する。

5.1.7 学部に関連づけ情報

1. 各部門やセンターに属する講座情報を管理する。

例 2013_department.csv:

```
# 名称-日, 名称-英, 所属名-日, 所属名-英, 講座コード  
コンピュータ・サイエンス部門, Division of Computer Science, コンピュータ理工学科,  
epartment of Computer Science and Engineering, 102-001, 106-003, 104-009, 103-002,  
105-036, 107-032, 101-074  
コンピュータ工学部門, Division of Computer Engineering, コンピュータ理工学科,  
epartment of Computer Science and Engineering, 208-033, 201-031, 202-034, 203-037,  
204-005, 206-006, 207-035, 205-007  
情報システム学部門, Division of Information Systems, コンピュータ理工学科,  
epartment of Computer Science and Engineering, 302-016, 303-011, 304-012, 306-014,  
307-008, 305-013, 309-038, 310-010, 301-015, 308-004  
センター, Centers, コンピュータ理工学科, epartment of Computer Science and Engineering,  
406-090, 405-071, 407-080, 408-077, 401-072, 402-073, 403-079, 404-075, 409-078
```

5.1.8 年報編集と教員による申告の独立した実施

管理者が業績登録として定義した当該年に制約を受けずに、直近から経年までの教員及び講座の業績情報の編集を可能とする。

1. 年報編集用として編集を行う年度の定義ができること。
2. 管理者（年報編集者）として編集画面に遷移した場合、登録年度は年報編集用の年度が初期表示されるが登録年度を任意に変更して編集対象とする年度の変更を可能とする。
 - 教員業績登録画面
 - 講座業績登録画面

5.1.9 申告時のエラーチェック機能強化

実績登録に係るエラーチェック機能を強化し、教員による講座実績登録時及び管理者（年報編集者）の編集作業の効率化を図る。また、エラーの生情報を表示すること。

1. TeX のエラー表示欄を設け、登録時に申請内容の確認が行えること。
 - 教員向けの講座実績登録画面
 - 管理者（年報編集者）向けの講座業績一覧画面
 - 「学長あいさつ」編集画面
 - 「前書き」編集画面
 - 登録時に各カテゴリ毎でのエラーチェックが行えること。
 - 申告時にエラーがあった場合には、そのエラー内容を表示の上で、登録処理は行わないこと。

5.1.10 教員情報などの環境設定作業の効率化

講座、役職、学部及び細目などのシステム運用管理情報についてテキストベースでの管理機能を追加することで環境定義の効率化を図る。

1. 一括ダウンロード、アップロードによりシステム運用管理情報を CSV データで編集ができること。
 - 講座、役職、学部、教員情報画面
 - 細目情報画面
2. システム運用管理情報の各編集画面において、アップロード、ダウンロードのリンクを設けること。
3. アップロード指示画面では対象年度を指定できること。

5.1.11 教員による経年分の登録済み業績の随時変更

教員による経年分の業績情報の更新を随時行うことで、累積した情報の精度向上を図る。

1. 教員業績登録画面において経年分の業績情報の更新が随時行えること。
 - 教員向け業績登録画面
2. 業績情報の登録は基本は直近の業績情報の編集となるため、経年分の編集指示時の操作における年度指定などはそれらの妨げや誤操作とされない実装とすること。
3. 経年分の情報編集の際には利用者が経年分の情報を編集していることを意識させるよう、色や表示などで認識できる機能を持つこと。

5.2 教員業績の申告

5.2.1 業績申告

1. 業績申告用ファイル中の教員名 (ログイン名) にて業績登録者の申告用ファイルであることの確認を行うこと。
2. 業績申告用のファイルを登録できること。
詳細は【20 頁 A.1. 業績申告用テンプレート (日本版)】を参照のこと。
3. 業績申告用テンプレートの細目単位 (例：1010) でウェブブラウザより各項目を直接入力できること。細目中の付番 (例：1010[1]) は自動的に付与すること。
4. 利用者は自分のログイン名でシステム認証を受ける。
5. 複数組織に属する教員は、ログイン後に当該の組織を切り替えて業績の申告ができること。
6. 申告時のエラーについて詳細情報の表示ができること。
7. 和英の様式指定ができること。
8. DOI³ についても項目に含められること。

³ Digital Object Identifier

9. 登録された業績データは、テンプレートでの入力及びウェブブラウザによる直接入力のいずれの場合でも、登録された単位で業績データとは別にテキストファイルにてシステムに”ユーザにより登録されたデータ”として保存されること。特にテンプレート読み込みのファイルは、オリジナルのまま保存すること。

5.2.2 申告例

1. 申告ファイルは、利用者がテンプレートを元に項目単位に行を複製し業績毎に付番を行い申告ファイルを作成する。

例: テンプレート (元)

```
#-----  
# 学術誌 (ジャーナル)  
#-----  
#      必須項目: author, title, journal, year  
#      任意項目: volume, number, pages, month  
# 記入例  
# [1]  author = "Tarou, A."  
#      title = "Design considerations for a message file server"  
#      journal = "IEEE Trans. Softw. Eng."  
#      year = 1984  
#      volume = "SE-10"
```

例: 業績が2件の場合、設問+付番 ([1] など) 毎に項目を展開し記述する。

```
{2010} 学術誌 (ジャーナル)  
#-----  
# 学術誌 (ジャーナル)  
#-----  
[1]  author = "T.Aizu"  
     title = "Design considerations for a message file server"  
     journal = "IEEE Trans. Softw. Eng."  
     year = 1984  
[2]  author = "T.Aizu",  
     title = "Effect of Finite Register Length in the Fast Hartley Transform"  
     journal = "Electronics and communications in Japan"  
     year = 1992  
     volume = 75  
     number = 1
```

例: 「自由記述」の場合、設問+付番 ([1] など) 以降がフリーフォーマットとなる。

```
{5050} 地域産業の従事者を対象とする社会人教育に対する貢献  
#-----  
# 地域産業の従事者を対象とする社会人教育に対する貢献  
#-----  
[1] During the winter semester of 1993--1994 academic year, I was  
teaching Computer Literacy II to the students of this University. Some  
of them will hopefully become employees of regional industries.  
[2] The Fast.....
```

2. 申告データは構文チェック後、データベースへ格納すること。

- 必須、任意項目のチェック及びパーサー的な構文の論理チェックを行う。

5.2.3 業績入力画面

業績入力の画面構成は、以下の通りとする。

1. 利用者が、業績の記入がしやすいこと。
2. テンプレートで業績をアップロードの場合、申告ファイルが細目の構造上エラーになっている部分を除き、申告ファイル中のエラーの有無に関わらず一旦申告内容が登録され、申告内容がエラーとなっている細目の背景は赤色に表示されること。
3. 各細目をクリックすることで、ウェブフォームにより内容の修正等が行えること。
4. 上記、2., 3.の間でも新規でウェブフォームでの新規業績細目の登録が可能なこと。
5. 上記、4.での細目が追加された以降での、2.による業績アップロードが行われた際には、申告ファイル中の細目 [枝番] により登録済みの業績が更新されること。
6. 右側には、最終の PDF がイメージ表示されること。

5.3 組織業績の申告

5.3.1 業績申告

1. 業績申告用のファイルを登録できること。
詳細は【35頁 A.3.組織業績情報】を参照のこと。
2. 利用者は組織名でシステム認証を受ける。
認証は組織に対応している教員のログイン名にて認証ができること。
3. 申告データはチェック後、データベースへ格納すること。
 - 格納時の Key は、「年度+講座情報」とする。
 - 単語数の上限チェックなどを行う。
4. 和英の様式指定ができること。

5.4 業績の参照

5.4.1 業績参照

1. 申告済みの業績情報を参照できること。
2. 年度指定、講座指定、設問指定などの組み合わせにより照会ができること。
3. 照会結果について、業績申告用のテンプレート様式にてダウンロードができること。保存されるファイルは、照会条件やダウンロードされたことがわかる記述を先頭に付加すること。

5.5 運用管理

5.5.1 申告状況の把握

1. 教員情報、組織情報、申告業績情報を元に、未申告情報を表示できること。

5.5.2 代行申告

1. 【13 頁 5.2. 教員業績の申告】に関する代行作業ができること。
2. 【15 頁 5.3. 組織業績の申告】に関する代行作業ができること。

5.6 年報作成

5.6.1 機能要件

1. 以下に示す年報を作成できること。

詳細は下記 URL の【会津大学年報】を参照すること。

<http://www.u-aizu.ac.jp/research/annual.html>

- (1) 学長挨拶（寄稿）
- (2) 会津大学の概要紹介
- (3) 大学の所在情報
 - 地図情報
 - 案内文
- (4) 年報の目次
- (5) 組織紹介

a. 教員紹介 [氏名及び写真]	
b. 活動概要	組織業績
c. 学術誌	Refereed Journal Papers
d. 学術集会論文誌	Refereed Proceeding Papers, Unrefereed Papers
e. 科研費他公的機関からの研究助成	Research Grants
f. 専門書の執筆	Technical Report, Book, Chapters in Books
g. 学会活動	Academic Activities
h. その他の業績	Other

- (6) 著者索引
- (7) 編集後記（寄稿）
- (8) 集約された業績は、PDF ファイル及び TeX 原稿として取り出しができること。また、TeX 原稿については、AINS 環境に置いて PDF ファイルの生成までできること。

※ (4) 年報の目次、(5) 組織紹介について業績データベースから情報を取得し自動生成し、他の章については TeX ファイルのインポートにて展開し対応する。
構成上必要となるインポートファイルは管理者が保存する。

5.7 現行システムからの変更点

次期システムで時に求められている現行システムからの変更点は以下の通りであり、それらを実現すること。

- 教員が今年度、次年度を切り替えてデータを入力できること。
- 管理者が年度を指定して年報 PDF を随時発行できること。
- 最新年度については年報をバックグラウンド (バッチ) により日次で出力すること。その際にエラーが発生した場合には管理者に通知すること。
- テンプレートファイル (入力)、DB (保存) の両データについて、文字コードを UTF-8 に統一すること。
- TeX システムのライブラリ、バージョンについては年度毎に更新すること。

6 構成機器に関する要求事項

6.1 機器構成

年報業績登録システムのハードウェア構成例を以下に示す。
提案するパッケージソフトウェアの動作環境としてハードウェア構成が異なる場合は、構成例上の機器仕様に準ずるハードウェア構成または、同等の性能を維持できるハードウェア構成とすること。

機 器	台 数
業務用サーバ 冗長化電源装置 D2D に因るバックアップ先のディスクを含む	1 台

6.2 機器仕様

6.2.1 業務用サーバ

業務用サーバは年報業績登録システムで扱われるデータを一元的に管理する装置であり、管理しているデータのバックアップなどが適切に行われる機構が必要である。また、教員向けサービスを提供する装置でもある。サービスに対応した装置構成と性能の確保、セキュリティ対策や管理しているデータのバックアップなどが適切に行われる機構が必要である。

1. 装置の選定根拠を明示すること。
 - (1) 機器構成（CPU・メモリー・HDD）について、総合性能として対象業務が支障無く行われること。
 - (2) 賃貸借期間中に扱われる業務データを保持できるディスク容量を持つこと。
 - (3) 提案する業務パッケージが稼動する環境として支障が無いこと。
2. サーバの耐障害性、可用性として以下の条件を満たすこと。
 - (1) 電源ユニット、筐体冷却ファン、ハードディスク、ネットワークインターフェースの主要部品は冗長構成とし、活性保守が可能であること。
 - (2) メモリーは ECC 等のエラー訂正機構を有すること。
 - (3) ハードディスクはハードウェアによる RAID1 以上で構成すること。
 - (4) OS 領域、業務システム及びシステムデータ領域、データバックアップ領域は、それぞれ物理的に別なドライブを利用すること。
3. 以下の機器・機能を装備すること。
 - (1) サーバ環境のバックアップについて以下の要件を満たすこと。
 - i. 業務用データのバックアップについて以下の要件を満たすこと。
 - A. 夜間自動的に毎日バックアップが行われること。
 - ii. バックアップ構成は D2D を基本とし、テープ媒体等への保存は必要としない。
 - iii. バックアップ環境は、業務データ及びサーバ環境のバックアップやリストア等を包括的に管理できるものとする。
 - (2) Fast Ethernet 以上のネットワークインターフェイス

(3) 機器の稼働記録 (syslog 等) はアーカイブ・ログ方式で記録され全て保持されること。

4. 以下の動作環境・条件を満たすこと。

(1) 業務データは夜間自動的にバックアップが行われること。

(2) 交流 100V にて動作可能であること。

(3) 特別な冷却装置を必要とせず、室温で動作可能であること。

(4) 納入予定とされる機器における消費電力を明記すること。

(5) 筐体は 4U サイズ以下で 19 インチラックマウントが可能であること。

(6) サーバ装置に付随するサーバの稼働状況表示及び監視用の装置 (コンソールドロア) 及び接続ケーブル類。サーバと同様に 19 インチラックマウントが可能であること。

(7) 提案するシステムで必要となるソフトウェア (BIBTeX など) を包括していること。

(8) 障害復旧や保守作業が原則 3 時間以内 (作業者の現場までの到着時間を除く) で行える構造であること。

A 参考資料

A.1 業績申告用テンプレート（日本語版）

```
=====
#           自己申告テンプレート
=====
#
#           {4桁の数字}で始まる行には、具体的な業績細目が書かれています。
#           申告する場合には、該当する業績細目の後ろに行を挿入し、
#           「記入例」にならって申告内容を書き込んでください。
#           {4桁の数字}で始まる行は変更しないでください。
#
#           業績細目については、申告の先頭に [] でくくった連番を付して、
#           その後に書き込んでください。
#           申告が1件の場合でも、[1] から書き始めてください。
#           2件以上の場合は、以下、順に [2],[3]、…とします。
#
#           申告内容の記入に際しては、以下の点に注意してください。
#
# 注意 1:
# label にはログイン ID を指定してください。(login_name の部分を書き換え
# ~~~~~
#     て下さい。)
#
# 注意 2:
#     連番を記入する以外では、
#     行の先頭に {, [ の2種類の文字を使用しないでください。
#     使用した場合は、正しく申告されない場合があります。
#
# 注意 3:
#     # で始まる行はテンプレートのためのコメント行です。
#     コメント行の内容は申告に反映されません。
#
# 注意 4:
#     本システムは TeX をバックエンドとして使用しています。従って、TeX で使わ
#     れる記号の扱いについては注意してください。
#     本文中では、各記号について以下のように記述してください。
#           # -> \#
#           $ -> \$
#           % -> \%
#           & -> \&
#           _ -> \_
#           { -> \{
#           } -> \}
#           \ -> \backslash (バックスラッシュ), {\Y\llap{=}} (円マーク)
#           ^ -> \textasciicircum
#           ~ -> \textasciitilde
#           < -> \textasciiless
#           > -> \textasciigreater
#           | -> \textbar
#           " (二重引用符、始まり) -> ‘‘
#           " (二重引用符、終わり) -> ’’
#     記号をそのまま入力した場合、コンパイルエラーとなるほか、最悪の場合
#     文書として出力されないことがあります。
#
# 注意 5:
#     label 行以外は、最後に (,) を付けて下さい。
#
```

```

# 注意 6:
# 業績細目の記述には、氏名など、必要最低限の場合を除き、日本語を使用し
# ないでください。本年報は海外にも配布されるため、日本語で記述された内
# 容は読んだ人が理解できない場合があります。また日本語を使用すると最悪
# の場合文字化けを起し、出力できなくなることがあります。
# 記述に日本語が使用されている場合、管理者が強制的にもっとも近い（と判断
# される）英語に変更することがあります。
# 日本語の題名の論文や研究費の申請項目なども、アブストラクトや雑誌名を
# 含め、すべての項目を英語に訳して記入してください。
#
#
# %%%%%%%%%%%
#
#     ここから記入項目。まず、以下の label を変更してください。
#
# %%%%%%%%%%%

label = "login_name"

#=====
#
# 研究
#
#=====
#
# 学術論文 (academic papers) を以下の通り定義する:
#
# [] 公開学術雑誌 (journals) や公開学術集会 (conferences) において
# 当該分野の専門家による査読を経た論文 (peer reviewed papers) は、
# 典型的な学術論文 (academic papers) である。
# 公開査読付学術雑誌や公開査読付学術集会における招待論文
# (invited papers) は、一般的には通常よりはるかに群を抜いた学術論文
# として取り扱われる。
#
# 学術雑誌における論文では、
# 投稿規定が学術雑誌に明記されており、その公募と当該専門分野の
# 複数専門家による査読と査読結果の著者への開示が
# 実施されていなければならない。
#
# 学術集会における論文では、
# 論文募集が専門分野の研究者に必要な期間を設けて広報され、
# そこに論文を審査するプログラム委員リストが明記されていなければ
# ならない。
# また、論文は公募であり、
# 複数の当該専門分野の専門家による論文の査読と、
# 査読結果の著者への開示がなされていなければならない。
#
# [] 当該分野の専門家による審査を経ることなく掲載される出版物、
# たとえば一般雑誌の記事や大学の紀要等の論文、および
# チュートリアルやサーベイ、総合報告等の論文は、
# 原則として論文とは認めない。
# ただし、特別に認めうる状況にあるとの申し立てがなされた場合には、
# 評価委員会において学術論文に相当する業績か否かを上記の基準に
# 照らして個々に審査決定する。
#
# [] 学術論文の申告の際には、同時に査読結果を提出することが望ましい。
# 編集委員、もしくはプログラム委員を含め 3 人以上の審査員による
# 査読結果があることが望ましい。
# これは国際的な高水準の学術雑誌や学術集会では、

```

```

# 一般的な審査システムである。一部の学術雑誌や学術集会においては、
# 審査システムはこれと異なり、1名、ないし2名の審査員しか置かない
# 場合がある。これらの審査論文については、注意深く検討の上、
# 学術論文とみなせる余地がある場合もある。
# この場合、審査方法や手順についての説明を付すること。
# もし、掲載がかなり以前のものであるため審査結果を保持していない場合は、
# (the referee reports were lost) と括弧書きすること。
#
# □ 共著論文については、本人の貢献が無視し得る程少ない場合は、
# これを評価しない。

```

```

#-----
{1010} 査読付き学術誌 (ジャーナル)
#-----

```

```

# 必須項目: author, title, journal, year, note
# 任意項目: volume, number, pages, month
# 記入例
# [1] author = "Aizu, T.",
#      title = "Design considerations for a message file server",
#      journal = "IEEE Transactions on Software Engineering",
#      year = 1984,
#      volume = "SE-10",
#      number = 2,
#      pages = "201--210",
#      note = "We study steady-state and transient ..... ",

```

```

#-----
{1011} 査読なし学術誌 (ジャーナル)
#-----

```

```

# 必須項目: author, title, journal, year
# 任意項目: volume, number, pages, month, note
# 記入例
# [1] author = "Aizu, T.",
#      title = "Design considerations for a message file server",
#      journal = "IEEE Transactions on Software Engineering",
#      year = 1984,
#      volume = "SE-10",
#      number = 2,
#      pages = "201--210",
#      note = "We study steady-state and transient ..... ",

```

```

#-----
{2020} 査読付き学術集会論文誌 (プロシーディングス)
#-----

```

```

# 必須項目: author, title, booktitle, year, note
# 任意項目: editor, pages, organization, publisher, address, month,
#           volume, number, series
# 記入例
# [1] author = "Aizu, T.",
#      title = "Evaluation of access methods to text document in office system",
#      booktitle = "3rd Joint ACM-BCS Symposium on Research and Development
#                  in Information Retrieval",
#      year = 1984,
#      editor = "M.P. Bekakos, Editor",
#      pages = "21--40",
#      organization = "ACM",
#      publisher = "Cambridge University Press",
#      address = "New York",
#      month = "April",

```

```

#       note = "We review the occurrence of periodic ..... ",
#-----
{2021} 査読なし学術集会論文誌（プロシーディングス）
#-----
#       必須項目: author, title, booktitle, year
#       任意項目: editor, pages, organization, publisher, address, month,
#                   volume, number, series, note
# 記入例
# [1]  author = "Aizu, T.",
#       title = "Evaluation of access methods to text document in office system",
#       booktitle = "3rd Joint ACM-BCS Symposium on Research and Development
#                   in Information Retrieval",
#       year = 1984,
#       editor = "M.P. Bekakos, Editor",
#       pages = "21--40",
#       organization = "ACM",
#       publisher = "Cambridge Univercity Press",
#       address = "New York",
#       month = "April",
#       note = "We review the occurrence of periodic ..... ",
#-----
{2030} 専門書、教科書等の著書
#-----
#       必須項目: authorまたはeditor, title, publisher, year
#       任意項目: volume, series, address, edition, month, number, note
# 記入例
# [1]  author = "Tarou Aizu",
#       title = "Non-Uniform Random Variate Generation",
#       publisher = "Springer-Verlag",
#       year = 1986,
#       address = "New York",
#       series = "Highly Parallel Computations: Algorithms and
#                   Applications",
#       number = 5,
#-----
{2031} 専門書、教科書等の著書（一部）
#-----
#       必須項目: authorまたはeditor, title, publisher, year, chapterまたはpages
#       任意項目: volume, series, address, edition, month, number, note, type
# 記入例
# [1]  author = "Tarou Aizu",
#       title = "Non-Uniform Random Variate Generation",
#       publisher = "Springer-Verlag",
#       year = 1986,
#       address = "New York",
#       series = "Highly Parallel Computations: Algorithms and
#                   Applications",
#       number = 5,
#       pages = 1,
#=====
# 活動に関する業績
#-----
{3010} 科研費他公的機関からの研究助成
#-----
#       必須項目: author, title, year

```

```

#       任意項目: class, category, month, number
# 記入例
# [1] author = "Aizu, T.",
#       title = "Ministry of Education Scientific Research Fund",
#       year = "2000-2002",

#-----
{3020} 学会活動
#-----
#       必須項目: author, society, year, note
#       任意項目: month
# 記入例
# [1] author = "Aizu, T.",
#       society = "IEEE",
#       month = "April",
#       year = "2000",
#       note = "Theme Chair, IEEE APBME 2000.",

#-----
{3030} 特許
#-----
#       必須項目: authorまたはinventor, title, country, year, number
#       任意項目: year, month, status
# 記入例
# [1] author = "Aizu, T.",
#       title = "Protocol for communication with dynamic memory
#             Registered PAT.NO. 6.590.335 U.S.",
#       country = "U.S.",
#       year = 2000,
#       month = "March",
#       number = 1,

#-----
{3040} 学位取得者に対する研究指導
#-----
#       必須項目: author, title, school, year
#       任意項目: type, address, month, note
# 記入例
# [1] author = "Tarou Aizu",
#       title = "Graduation Thesis: Analysis of Parametric Models for Lift-Time Data",
#       school = "University of Aizu",
#       year = 2001,
#       note = "Thesis Advisor: F. Rabitti",
# [2] author = "Hanako Aizu",
#       title = "Master Thesis: Method and apparatus for selection a version of ....",
#       school = "University of Aizu",
#       year = 2001,
#       note = "Thesis Advisor: F. Rabitti",

#-----
{3050} その他（上記カテゴリ以外）
#-----
#       必須項目: 無し
#       任意項目: author, title, howpublished, month, year, note
# 記入例
# [1] author = "Aizu, T.",
#       note = "Project is ..... ",

#-----

```

```

{4010} シラバスの作成に関する貢献
#-----
#       必須項目: note
#       任意項目: 無し
# 記入例
# [1] note = "Following course planning, a syllabus becomes the...",

#-----
{4020} 知識の量を測定するテストの作成に関する貢献
#-----
#       必須項目: note
#       任意項目: 無し
# 記入例
# [1] note = "...",

#-----
{4030} 指導した学生/院生の学術論文
#-----
#       必須項目: author, title, journal, year
#       任意項目: volume, number, pages, month
# 記入例
# [1]  author = "Tarou Aizu",
#       title = "Data model issues for object-oriented applications",
#       journal = "ACM Transactions on Off. Inf. Syst.",
#       year = 2000,
#       volume = 5,
#       number = 1,
#       pages = "3--26",
#       month = "Jan.",

#=====
#
# 《学内運営》
#
#       申告を行うときには、本評価細目の後ろに行を挿入し、
#       [] でくくった連番を付けて、自由な形式で書いてください。
#
# 記入例
# [1]  note = "...",

{5010} 年間スケジュールの作成に関する貢献
# 記入例
# [1] note = "...",
{5020} 図書・教科書の選定に関する貢献
{5030} 備品管理、教室管理、建物管理、防犯・防火に関する貢献
{5040} 就職指導に関する貢献
{5050} クラブ・サークルの顧問
{5060} 学生管理（学生に関係したトラブルの処理、他）に関する貢献
{5070} 教員人事（外部からのスカウト、他）に関する貢献
{5080} 学内計算機システムの構築、運用に関する貢献
{5090} 学内外の広報活動に関する貢献
{5100} 学内教員に対するコンピュータ・リテラシー教育に関する貢献
{5110} 教育企画運営に関する貢献
{5120} 研究、および研究集会・国際研究の企画運営に関する貢献
{5130} 教育研究技術、および設備企画運営に関する貢献
{5900} その他、大学の企画、管理、運営等に関する多大な貢献

#=====

```

《地域教育貢献》

#

申告を行うときには、本評価細目の後ろに行を挿入し、
[] でくくった連番を付けて、自由な形式で書いてください。

#

記入例

[1] note = "...",

{6000} 地域教育への貢献に関するもの

記入例

[1] note = "...",

{7010} 地域の現状を把握し、大学との接点となる事業計画の立案／実施

{7020} 今後の産業計画の立案／実施

{7030} 既存産業（例えば漆器製造・販売）の活性化に対する貢献

{7040} 新規産業に対する提案／実施に対する貢献

{7050} 地域産業の従事者を対象とする社会人教育に対する貢献

{7900} その他、地域産業貢献に関するものに多大な貢献

{8010} 学生のリクルート、卒業生支援、父兄との接触（有無、ある場合はその内容）

{8020} ファカルティデベロップメント活動に対する参加（有無、ある場合はその内容）

{8030} 公開講座、オープンキャンパスへの参加（有無、ある場合はその内容）

{8040} 産学連携で使えるような研究成果とその特徴（UBICで参考とします）

{8050} 産学連携の経験（有無、ある場合はその内容）

#=====

A.2 業績申告用テンプレート（英語版）

```
#####
#           The University of Aizu
#           Annual Review template
#####
#
# The lines that begin with a {4-digit number} contain specific
# achievement items.
# To report your contribution, insert a line after the corresponding
# evaluation item and enter the information according to the Entry
# Example.
# Do not change any line that begins with a {4-digit number}.
#
# You may need to enter more than one entry for a specific category.
# If you wish to do so, enter a sequence number enclosed in
# brackets and write your entries after the number.
# All entries must begin with number around brackets. Also, you must start
# your entry with [1] even if you are reporting only one entry.
# For additional entries, enter the sequence numbers [2], [3] ...
# at the beginning of each entry.
#
#
# When entering report information, note the following points.
#
# Note 1:
# Please specify your login ID to be label (login_name).
# ~~~~~
# Note 2:
# Except when entering sequence number, do not begin a line with the
# either of the two characters { or [.
# If you do use one of these characters, the entry may not be
# properly reported.
#
# Note 3:
# A line that begins with # is a comment line for template,
# The lines are not reflected in the report. If you insert a line
# that begins with #, the line will be erased at the time when
# an editor is activated again.
#
# Note 4:
# This system uses TeX as the backend. Therefore, you should change some
# symbols which is regarded as special characters in TeX system.
# If you use these symbols in your entries, the system will cause TeX compile
# errors which may lead output failure (no output of your contents).
# Here are some examples you should change:
#           # -> \#
#           $ -> \$
#           % -> \%
#           & -> \&
#           _ -> \_
#           { -> \{
#           } -> \}
#           \ -> \backslash (backslash), {Y\llap{=}} (JPY/CNY symbol)
#           ^ -> \textasciicircum
#           ~ -> \textasciitilde
#           < -> \textasciiless
#           > -> \textasciigreater
#           | -> \textbar
```

```

#           " (double quotation, beginning) -> ‘‘
#           " (double quotation, ending) -> ’’
#
# Note 5:
# Please attach comma (,) to the last of a line.
#
# Note 6:
# You cannot use Japanese characters in your text except necessity minimum
# case such as personal names. As this Annual Review is distributed to
# overseas organizations, content written in Japanese may not be understood
# by them.
# Also, use of Japanese characters may cause compiling trouble and output of
# garbled characters and, in the worst case, your document will not be output.
# If you use Japanese characters in your text, administrators may compulsorily
# translate (change) into English with the nearest expression (which is
# understood by administrators).
# Please translate all Japanese items such as paper titles, magazine names
# and application subject of research expenditure into the nearest English.
#
#%%%%%%%%%%
#
#           Starting of contents entry.
#           At first, you should change "login_name" below.
#
#%%%%%%%%%%

label = "login_name"

=====
#
# Research
#
=====
#
# Academic papers are defined as follows:
#
# [] Peer reviewed papers in open journals and open conferences are
# typical academic papers. Invited papers in refereed journals and
# open refereed conferences are generally respected as exceptionally
# outstanding academic papers.
#     In case of journal articles,
# the rules for submission of papers should be clearly stated in the
# journal. The journal should follow a policy of open submissions,
# and papers should be peer reviewed by experts in the field, with the
# review results reported to the author.
#     In case of conference articles,
# the conference should be made open to researchers in the field
# through ‘‘call for papers’’ published sufficiently in advance. The
# program committee members who are in charge of reviewing the papers
# should be listed. The conference should follow a policy of
# open submissions. The papers should be refereed by experts in the field with
# the results reported to the author.
#
# [] Publications which are not peer reviewed and evaluated
# are not considered to be academic papers. In principle,
# the following publications are not considered to be academic
# papers: popular articles in magazines, papers
# in university bulletins, tutorials, surveys,
# and general reports.

```

```

# However, if a faculty member under review requests with sufficient
# supporting data that such publications
# be considered, the evaluation committee will decide whether or not it is
# acceptable as an academic paper based on the criteria stated above.
#
# [] When an academic paper is submitted for evaluation credit, ideally
# the review results are preferred to be submitted at the same time.
# The review results are desirably from three or more referees,
# including the editorial board members or program committee members.
# It is generally the case with the refereeing system
# of journals or conferences of internationally high standard.
# In some journals or conferences, the refereeing systems are different
# and have one or two referees only. These refereed papers require separate
# careful consideration, and there is a room for them to be also counted as
# academic publications. In that case, please attach comments regarding
# the review situation. When papers have been published long time
# before, you may not have referee's reports in your file.
# In that case please remark that the reports were lost in the parentheses.
#
# [] If the contributions to a co-authored paper are considered to
# be negligible, the paper will not be accepted for evaluation credit.
#

#-----
{1010} Refereed academic journal
#-----
# Required items: author, title, journal, year, note
# Optional items: volume, number, pages, month
# Entry Example
# [1] author = "Aizu, T.",
# title = "Design considerations for a message file server",
# journal = "IEEE Transactions on Software Engineering",
# year = 1984,
# volume = "SE-10",
# number = 2,
# pages = "201--210",
# note = "We study steady-state and transient ..... ",

#-----
{1011} Unrefereed academic journal
#-----
# Required items: author, title, journal, year
# Optional items: volume, number, pages, month, note
# Entry Example
# [1] author = "Aizu, T.",
# title = "Design considerations for a message file server",
# journal = "IEEE Transactions on Software Engineering",
# year = 1984,
# volume = "SE-10",
# number = 2,
# pages = "201--210",
# note = "We study steady-state and transient ..... ",

#-----
{2020} Refereed proceedings of an academic conference
#-----
# Required items: author, title, booktitle, year, note
# Optional items: editor, pages, organization, publisher, address, month,
# volume, number, series

```

```

# Entry Example
# [1] author = "Aizu, T.",
# title = "Evaluation of access methods to text document in office system",
# booktitle = "3rd Joint ACM-BCS Symposium on Research and Development
# in Information Retrieval",
# year = 1984,
# editor = "M.P. Bekakos, Editor",
# pages = "21--40",
# organization = "ACM",
# publisher = "Cambridge Univercity Press",
# address = "New York",
# month = "April",
# note = "We review the occurrence of periodic ..... ",

#-----
{2021} Unrefereed proceedings of an academic conference
#-----
# Required items: author, title, booktitle, year
# Optional items: editor, pages, organization, publisher, address, month,
# volume, number, series, note
# Entry Example
# [1] author = "Aizu, T.",
# title = "Evaluation of access methods to text document in office system",
# booktitle = "3rd Joint ACM-BCS Symposium on Research and Development
# in Information Retrieval",
# year = 1984,
# editor = "M.P. Bekakos, Editor",
# pages = "21--40",
# organization = "ACM",
# publisher = "Cambridge Univercity Press",
# address = "New York",
# month = "April",
# note = "We review the occurrence of periodic ..... ",

#-----
{2030} Writing a textbook or technical book
#-----
# Required items: author or editor, title, publisher, year
# Optional items: volume, series, address, edition, month, number, note
# Entry Example
# [1] author = "Tarou Aizu",
# title = "Non-Uniform Random Variate Generation",
# publisher = "Springer-Verlag",
# year = 1986,
# address = "New York",
# series = "Highly Parallel Computations: Algorithms and
# Applications",
# number = 5,

#-----
{2031} Writing a part of textbook or technical book
#-----
# Required items: author or editor, title, publisher, year, chapter or pages
# Optional items: volume, series, address, edition, month, number, note, type
# Entry Example
# [1] author = "Tarou Aizu",
# title = "Non-Uniform Random Variate Generation",
# publisher = "Springer-Verlag",
# year = 1986,

```

```

#       address = "New York",
#       series = "Highly Parallel Computations: Algorithms and
#               Applications",
#       number = 5,
#       pages  = 1,

#=====
# Achievement of Activities

#-----
{3010} Research grants from scientific research funds and public organizations
#-----
#       Required items: author, title, year
#       Optional items: class, category, month, number
# Entry Example
# [1] author = "Aizu, T.",
#       title = "Ministry of Education Scientific Research Fund",
#       year  = "2000-2002",

#-----
{3020} Academic society activities
#-----
#       Required items: author, society, year, note
#       Optional items: month
# Entry Example
# [1] author = "Aizu, T.",
#       society = "IEEE",
#       month  = "April",
#       year   = "2000",
#       note   = "Theme Chair, IEEE APBME 2000.",

#-----
{3030} Patent
#-----
#       Required items: author or inventor, title, country, year, number
#       Optional items: year, month, status
# Entry Example
# [1] author = "Aizu, T.",
#       title = "Protocol for communication with dynamic memory
#               Registered PAT.NO. 6.590.335 U.S.",
#       country = "U.S.",
#       year   = 2000,
#       month  = "March",
#       number = 1,

#-----
{3040} Advisor for undergraduate research and graduate research
#-----
#       Required items: author, title, school, year
#       Optional items: type, address, month, note
# Entry Example
# [1] author = "Tarou Aizu",
#       title = "Graduation Thesis: Analysis of Parametric Models for Lift-Time Data",
#       school = "University of Aizu",
#       year   = 2001,
#       note   = "Thesis Advisor: F. Rabitti",
# [2] author = "Hanako Aizu",
#       title = "Master Thesis: Method and apparatus for selection a version of ...",
#       school = "University of Aizu",

```

```
# year = 2001,  
# note = "Thesis Advisor: F. Rabitti",
```

```
#-----  
{3050} Others  
#-----
```

```
# Required items: none  
# Optional items: author, title, howpublished, month, year, note  
# Entry Example  
# [1] author = "Aizu, T.",  
# note = " Project is ..... ",
```

```
#=====  
#  
# Others  
#  
#=====
```

```
#-----  
{4010} Contributions related to syllabus preparation  
#-----
```

```
# Required items: note  
# Optional items: none  
# Entry Example  
# [1] note = "Following course planning, a syllabus becomes the...",
```

```
#-----  
{4020} Preparation of course examination to measure comprehension  
#-----
```

```
# Required items: note  
# Optional items: none  
# Entry Example  
# [1] note = "...",
```

```
#-----  
{4030} Scholarly paper prepared by undergraduate/graduate student(s) you advised  
#-----
```

```
# Required items: author, title, journal, year  
# Optional items: volume, number, pages, month  
# Entry Example  
# [1] author = "Tarou Aizu",  
# title = "Data model issues for object-oriented applications",  
# journal = "ACM Transactions on Off. Inf. Syst.",  
# year = 2000,  
# volume = 5,  
# number = 1,  
# pages = "3--26",  
# month = "Jan.",
```

```
#=====  
#  
# School Management  
#  
# To make an entry, insert a line after this evaluation item, enter a  
# sequence number enclosed in brackets ([ ]), then describe your  
# contribution in any format.
```

```

#
# Entry Example
# [1] note = "...",
#

{5010} Contribution related to the creation of the annual schedule
# Entry Example
# [1] note = "...",
{5020} Contribution related to the selection of library or textbook materials
{5030} Contribution related to toward equipment management, classroom management,
# building management, and crime or fire prevention.
{5040} Employment guidance
{5050} Advisor of a student club or circle
{5060} Contribution related to student management
# (for example, solution of a student-related problem)
{5070} Contribution related to faculty personnel (outside scouting, etc.)
{5080} Contribution related to the building or operation of the university computer system
{5090} Contribution related to on-campus/off-campus publicity work
{5100} Contribution related to computer literacy education for university faculty members
{5110} Contribution related to educational planning management
{5120} Contribution related to planning administration for research, research conferences,
# or international research
{5130} Contribution related to educational research technology
# and facility planning management
{5900} Other significant contribution toward university planning, management,
# or administration

#=====
#
# Regional Education
#
# To make an entry, insert a line after this evaluation item, enter a
# sequence number enclosed in brackets ([ ]), then describe your
# contribution in any format.
#
# Entry Example
# [1] note = "...",
#

{6000} Contributions related to regional education
# Entry Example
# [1] note = "...",
{7010} Proposal/implementation of a company plan that addresses the current status
# of the region and establishes ties with the university.
{7020} Proposal/implementation of a future industry plan
{7030} Contribution toward promotion of traditional arts
# and industries (for example, lacquer ware arts)
{7040} Proposal/implementation of a new industry
{7050} Contribution toward education for employees of regional industries
{7900} Other noteworthy contribution related to regional industries
{8010} Did you participate in students recruitment, support the alumni,
# and/or contact with student's parent? (Yes or No) If yes, please
# describe what you did.
{8020} Did you participate in Faculty Development? (Yes or No) If yes,
# please describe what you did.
{8030} Did you participate in Public Lectures, and/or Open Campus?
# (Yes or No) If yes, please describe what you did.
{8040} Research achievement that can be used for University-Industry
# collaboration and its characteristics. (for UBIC's information)

```

{8050} Do you have experience of University-Industry collaboration?
If yes, please describe your experience. (for UBIC's information)

#=====

A.3 組織業績情報

Recognition, analysis and expression of images and letters are studied in the multimedia systems laboratory.

The 3-D motion and the 3-D shapes of the object are analyzed, understood and expressed by computer from the images taken by multi TV camera or video camera in the study of computer vision and/or the 3-D stereovision. Detailed movies can be seen from any angle through the 3-D video system, which is expected to be applied to many fields such as the inheritance of Aizu lacquer ware craftsman's manufacturing processes, the sports coaching and the recognition of the human facial expression.

In the remote sensing, the category classification technique can analyze the land usages from color information of land images. Two laboratory members are engaged in the SELENE project, the Japanese
1 ...